

# 同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第5号



熊本大学医学部保健学科第6回同窓会総会後の記念写真（平成21年8月1日）

目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学教育部長あいさつ	1
	卒業生の寄稿	2
	在校生の寄稿	4
	同窓会総会議事録	5
	特別講演	6
	国家試験合格状況	6
	H20年度卒業生の進路状況	7
	保健学科教員の紹介	7
	同窓会会則・細則	8
	同窓会役員	9
	編集後記	9

### 平成22年度同窓会総会、特別講演 および懇親会のご案内

平成22年7月3日（土）14時より、第7回保健学科同窓会総会、特別講演ならびに懇親会を開催いたします。場所は熊大医学部保健学科です。皆様のご参加をお待ちしております。

住所変更の場合は、下記にご連絡下さい。

TEL：096-382-1177 FAX：096-382-1170

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

## 熊本大学医学部保健学科同窓会設立6年 ―母校の歴史の重みを思う―

保健学科同窓会会長 **田中紀美子** (熊本大学医学部保健学科 看護学専攻)

今年度は、保健学科同窓生2期生を送り出しました。今年は、熊本大学が新制大学としてスタートし設立60周年となり、いろいろな記念式典が行われました。医学部保健学科は設立6年で、やっと2期生を社会に送り出し、同窓会の基盤づくりがまだまだ重要な時期であります。コメディカルの4年制大学教育としての歴史は浅いのですが、各学科の歴史は医学部附属学校時代に始まります。私は、医学部保健学科同窓会設立に当たって、同窓会役員となり看護学校時代の名簿作成に関わりました。同窓会員名簿作成に関わる中、大正10年以前の卒業生から、間に第二次世界大戦という大変な時代があっても看護教育は絶えることなく発展の過程をたどり、昭和54年第29期生をもって医学部附属看護学校の幕がおりるまでの歴史100年有余に思いを寄せました。そして、昭和の時代が終わり、平成も21年となり、附属学校時代の最後の29期生が現在50歳となられ大学病院にても大活躍中です。その後の医療技術短期大学部も27期生を最後に閉学となり、その卒業生がそれぞれの部署で役職に就くなど、活躍中です。医学部保健学科同窓生は、熊本の医学の歴史と共に歩んできたコメディカル教育の歴史の重さを知る必要があると思います。私たちは常に新しい医学教育の場所で、常に最先端の教育が受けられる環境に恵まれました。この教育の歴史を継代し、保健学科卒業生2期生を送り出し、着々と本学科卒業生を社会に送り出しつつあります。3年前に発刊された「第1号同窓会会員名簿」は、母校である各学校、医療技術短期大学部26期生(平成17年3月卒業)、専攻科助産学専攻生においては25期生卒業生までの名簿でした。母校との連携を保ち、会員相互の親睦を図るうえで名簿は貴重なものであります。平成23年発刊予定の名簿は、医療技術短期大学部最後の卒業生(27期生)ならびに助産学専攻生26期生、教育学部特別教科(看護)教員養成課程卒業生、医学部保健学科卒業生4期生までを加えての同窓会会員名簿第2号となります。個人情報保護法の問題がありますが、今後、回を重ねつつ卒業生の皆様のお名前を医学部保健学科歴史の記録として、同窓会会員名簿に残しておきたいという思いです。卒業生の皆様、ご賛同・協力いただきますようお願いいたします。船出したばかりの「保健学科同窓会」ですが、近い将来、医療社会の中で本学の卒業生が多数活躍することを期待し、人材育成を支援していく組織として、また皆様の心の拠り所になるべく「保健学科同窓会」を会員の皆様とともに発展させて行きたいと考えております。先輩諸姉のご協力をお願いいたします。

## 同窓会と保健学科の発展

保健学教育部長 **石丸靖二** (熊本大学医学部保健学科 検査技術科学専攻)

保健学科同窓会は、医療人養成の長い歴史を反映して保健学科の前身である医療技術短期大学部はもとより、その基となった看護学校や放射線技師学校、衛生検査技師学校、教育学部特別教科(看護)教員養成課程からなる大きな組織体です。来年度からは大学院保健学博士(前期)課程の卒業生が新たに加わることとなります。さらに、平成22年4月1日に保健学博士後期課程が新設されることになり、その3年後には博士後期課程の卒業生を世に送り出すこととなります。したがってこの同窓会は、このような多様な人材からなる集団から構成されるということが特色の一つとして挙げられます。

今後さらに多様化、高度化していく医療に対応するためには、医療現場の豊かな経験に裏付けられた知識と技術、研究の場における新しいものへ挑戦する研究心およびその成果による知識と技術などが一体となって融合し

た形の医療体系が必要であります。保健学領域では、これまでの多くの卒業生とこれから育っていく新しい世代が協力して医療を行っていくことが不可欠であり、そのための交流の場としての同窓会が重要な役目を果たしていくと考えられます。

この熊本大学の誇るべき同窓会がさらに発展していき、学部学生および大学院学生の教育・研究への皆様方のご支援をいただくことと、大学で挙げた成果を社会に還元していくことの両輪がこれからの保健学科の発展に重要なことだと考えます。今後ともよろしく申し上げます。

同窓会会員のますますのご活躍を祈念しております。



## 卒業生の寄稿

### 早いもので 卒業して2年も経ってしまいました！

聖路加国際病院

田口 知世 (保健学科 看護学専攻 1期生)

私は就職して2年目になります。就職するに当たって急性期の外科病棟を希望したものの、まさかの手術室勤務となりました（確かに急性期の外科ではありますが……）。

ここで少し当院手術室の紹介をすると、手術の診療科としては脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科（女性総合診療部）、消化器一般外科、泌尿器科など全14科で、その中でも乳腺外科が独立して設置されているのは珍しいのではないかと思います。国内でも数少ない乳がん専門のチーム医療を実践する「ブレストセンター」があり、乳腺外科の手術件数だけで年間500件以上も行われているので、興味のある方は是非ブレストセンターのHPを覗いてみて下さい。また、緊急手術の増加などに伴い全体の手術件数は年々増加傾向にあります。手術室看護師は43人おり、4階の中央手術室の8部屋と乳腺外科と外来手術を主に行っている2階の手術室の3部屋の計11部屋で、各部屋で1日平均2～3件の手術を行っています。今後も病院の方針から手術室を拡大していく予定があり、さらに手術室の需要は高まり、件数は増加していくでしょう。

手術室では1日に数件の手術を担当したり、1日がかりの長時間の手術に入ったり、毎日フレキシブルな業務となっています。毎回の手術に集中力や緊張感を保つのはとても大変なことですが、患者さん

にとっては人生の中の一大イベントである大切な手術であるため、安全な手術ができるよう毎回全力投球するよう意識しています。さらに、病棟では決して見ることでできない現場を見られたり、各科医師や麻酔科医、臨床工学士、業者などと一体になって手術を行なうため、チーム医療を肌で感じられるのが手術室の醍醐味だと思います。

入職した当初は戸惑いも多かったのですが、今は手術室看護師として少しは成長し、仕事の楽しさも少しずつ分かってきたり、責任ある仕事を任せられることがあったりと、忙しくも充実した日々を送っています。一方で、看護師としての知識や経験はまだまだ浅く、不安なことが多いのが実際です。毎日の経験を大切に、そして、確実に更なるステップアップを目指して、焦らずじっくり精一杯頑張っていこうと思います。

### 同窓会に参加して

(財) 熊本県総合保健センター

齊藤 忍 (医学部附属診療放射線技師学校 5期生)

私が熊本大学医学部診療放射線技師学校に入学した時は、クラスメートは18人でした。その中で女性は一人でした。その頃は看護、検査、放射線と教室も離れてほとんど逢うこともなかったように思います。その後、熊本大学医療技術短期大学部となり同じ校舎の中で学ぶことで交流も深まっていったと思います。平成16年熊本大学医学部保健学科と改まり、医学部保健学科同窓会の設立時、医療技術短



期大学部をはじめ、医学部附属看護学校、医学部附属助産婦学校、医学部附属エックス線技師学校、医学部附属診療放射線技師学校、医学部附属衛生検査技師学校、医学部附属臨床検査技師学校の各組織を一つにまとめ、ご尽力頂きましたことに感謝いたします。

熊本大学医学部保健学科同窓会に参加したのは今回で3回目です。熊本大学医学部保健学科になってもう6年になるのかとあらためて思い返した次第です。しかし放射線学科の卒業生の参加が少なく、少し寂しく思っています。

特別講演は、毎回新鮮な刺激をいただき楽しく参加させていただいております。今回もオーストラリアでのスピリチュアルカウンセラーとしての活動、さらに日本での講演会やセミナーを開催されている、山本みゆきさんの「私を変えたスペインヒーリングロードの旅」はどんなお話が聞けるのかと大変楽しみにしておりました。まず初めに若い女性が一人で、外国での長い旅に参加されたことに驚きました。私にはできないだろうな—と思いながらお話を聞かせていただきました。ご自分自身が実際に体験されたこと、その旅の道中での心の変化、孤独との戦い、人と人との出会い、人の暖かさが、目の前に現れるようなお話に惹きつけられ時間があっという間に過ぎてしまいました。人と人との付き合いは心を開いて素直にすること、思いやりを持って接することがいかに大切なものを教えていただきました。

医学部保健学科在校生の皆様、卒業されたらどこかの病院、医療施設、研究機関、企業等で仕事をされることと思います。社会に出られたら学生生活とは違ってくると思います。まず、時間を守り、有効に利用すること。人と人との付き合いの大切さは今回のお話でわかっていただけたと思います。人との出会いには笑顔を忘れずに、思いやりの心を忘れない人に育ててください。そして、多くの熊本大学の卒業生が、世界で活躍されています。皆様も先輩方を見習い、熊本大学卒業生であることを誇りとして、日本で、世界で活躍されることを願います。

また、熊本大学医学部保健学科同窓会で皆様にお逢いできることを楽しみにします。

## 臨床工学技士となって —検査畑から離れて— 30年

熊本大学医学部附属病院ME機器センター

原田 俊和 (医学部附属臨床検査技師学校 13期生)

昭和54年3月に熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業し、同年4月熊本大学医学部附属病院集中治療部（ICU）に就職しました。就職時に「検査の仕事と人工透析の仕事を御願います」と、中尾医局長に言われ、「ハイ!」と返事したものの、人工透析について何も知りませんでした。今でこそ、“人工透析（血液透析）”はある程度知られていますが、当時はほとんど知られていなかったと思います。最悪にも指導してくれる先生がいなかったため、業者に訊いたり、あらゆる機会に購入した本を読みあさったりして、人一倍苦労しました。特に、時折起るコイル型の透析装置からの漏血（膜のリーク）の原因が解らず悶々としていました。漏血の原因は、厚生省の研修制度を利用した熊本中央病院での研修中（昭和54年11月）に解明できました。その後、透析装置からの漏血が起らなくなりました。

資格制度が法的に認められ、昭和63年に“臨床工学技士”が誕生しました。臨床工学技士は呼吸・循環・代謝の生命維持装置の操作・保守を行なう業務です。私は大阪での2週間に及ぶ研修会（受講料+滞在費など約40万円出費）を経て受験資格を得、第1回国家試験に合格しました。

私の関わっているICU・救急領域では急性期医療が中心です。“生と死”の狭間にいる人たちを懸命に救命する“医療チーム”の一員として働いていますが、自分の知識や技術力によって、救命の手助けが出来た時の喜びはたまりません。それがあからこそ、一人で約20年間365日24時間ON-CALL体制にも耐えることができました。所属の名称がME機器センターとなり、人員も少し増え“仕事のやりがい”を感じながら仕事をしています。医療法の改正も追い風となり、病院全体を見据えた医療機器（ME）の新たな保守管理体制が確立されようとしています。

現在、臨床工学技士としてICUで働くかわら、非常勤講師として臨床工学技士の育成に携わっています。これからも救命ならびに後輩の育成に励んでいこうと思っています。



## 在校生の寄稿

### 保健学科同窓会に参加して

看護学専攻4年 宮崎みどり

今回、保健学科同窓会に参加して多くの先輩方とお話をする機会となり、一つ上の卒業生の先輩と久しぶりに再会することもできました。臨床1年目の先輩からは、就職活動や国家試験の勉強方法、仕事についてお話を伺い、来年から臨床で働く私にとって将来を考える良い刺激となりました。また臨床実習でお世話になった附属病院の看護部長さん、副看護部長さんとも直接お会いする事ができ、講義や病院説明会の時はゆっくりと一対一で話すことはできませんが、懇親会ではとても和やかな雰囲気でお話することができました。就職活動の話を始めとして、大学病院でのキャリア開発の話を詳しく聞き、就職先を決める際はただ「働く場」としてだけではなく、自分の将来を見据えて「学ぶ場」という視点も必要となると感じました。

私は現在4年生であり、就職活動をしています。自分は一体どんな看護師になりたいのか、どのようにキャリアを積んでいくのか、自分自身を振り返る機会が多くなり、それと同時に多くの悩みも生じてきます。そんな時に保健学科の卒業生でもある看護師の先輩方に多くのアドバイスを頂くことができ、大きな安心感を得る事ができました。

今回、講演をしてくださった山本みゆきさんはアメリカで看護留学を経験された方であり、看護留学に興味がある私にとって直接お話を伺えるとてもよい機会になりました。留学資金や、留学先での生活、単位修得について詳しく聞く事ができ、自分のモチベーションアップに繋がりました。

同窓会に参加した事で、大学生活のあらゆる場面で先輩方から支援を受けている事、見守って頂いている事を実感しました。「同窓会」と言われても学生にはピンと来ないかもしれません。しかし一度に多くの卒業生と会える機会は滅多にありません。同窓生として顔を合わせる事ができる良い機会なので、ぜひ来年は学生にも積極的に参加してもらいたいと思いました。

### 同窓会に参加して

放射線技術科学専攻4年 楠本 慶彦

今回私は同窓会の懇親会に参加し、先輩方と話をさせていただきたくさんのことを学ぶことができました。

まず実習先でお世話になった方とは今現在の病院の状況、これからどう変わっていくのかということを知ったり、考えを聞いていただいたりしました。そして実習中では聞くことができなかった技師さんたちの体験談を聞き、そんな先輩たちを誇りに思いつつ、自分もそんな先輩たちに少しでも追

いつけるように頑張りたいと感じました。また熊本大学医学部附属病院の技師長さんと直接臨床実習について技師と学生という立場からの意見を交換することができ、とても素敵な体験でした。

中でも特に印象に残ったのは国立科学スポーツセンターで働かれている方のお話です。スポーツ選手やオリンピック選手とのエピソードを聞かせていただきました。さらに次世代のスポーツ界のスターの資質が放射線を使うことでわかるという話は本当に興味深いものでした。

最後に今回実習先でお世話になった技師の方だけでなく、遠方から来られている方もたくさんいらっしゃっていたため普段できないとても貴重な体験をすることができたと思います。本当に短い時間でしたがこれからの自分に大切なことが何なのか、診療放射線技師とは何なのか、そして診療放射線技師の資格を持つことで出来ることはとてもたくさんあるということを知ることができ、今後もこのような機会を多く持ちたいと心から思いました。

### 私にとっての臨地実習

検査技術科学専攻4年 播磨佐江子

5月の連休明けから7月の半ばまでの約3ヵ月間の臨地実習があっという間に終わりました。実習に行く前は、長いなあ、本当にやっているとかなあ、怖いなあと不安だらけでした。

最初のうちは緊張し、どのようにすればいいのかわかりませんでした。そして、学校で勉強したことが実際現場でどのように活かされているのか全く想像ができませんでした。しかし、臨床検査技師さんたちはお忙しい中、業務のことや現場でしか学べないことを丁寧に優しく教えてくださいました。技師さんたちの業務の流れを見たり、実際にやらせてもらったりしたため、すごく勉強になりました。そして、学校で習った箇所がいくつかあることにも気づきました。

多くのことを学ぶことができたのですが、自分の勉強不足も痛感しました。そして、実際に働くようになって、スキルアップのために勉強を続けなければならないということを知りました。

臨地実習はあっという間に終わってしまいましたが、大変充実しており、もう1度実習をしたいと思うくらい楽しかったです。そして、実習で同じグループの友達とは、辛いことや楽しいことなどを分かち合い、助けられ、改めて友達のありがたさや大切さを感じています。

臨地実習を通して、検査技師の仕事が、どのようにして患者さんの病気の診断や臨床経過の診断に役に立っているのかを知ることができました。また、自分を見つめなおすだけでなく、周囲の人のありがたさなどいろいろなことを考える大変貴重な機会になりました。

## 第6回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成21年8月1日(土) 14:00~14:30  
 場 所 保健学科C503講義室  
 出席者数 103名  
 議 長 春田昭一氏(済生会熊本病院検診センター)

### <総会式次第>

開会の辞  
 同窓会会長挨拶  
 保健学教育部長挨拶  
 議長選出  
 議事

#### 1. 平成20年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

#### 2. 平成21年度事業計画(案)

#### 3. 平成21年度予算(案)

#### 4. 平成22-23年度会長選出について

#### 5. その他

閉会の辞

### 【報告】

14時、前田副会長より開会が告げられ第6回同窓会総会が開会された。

最初に、田中紀美子会長が会を代表して挨拶を行い、続いて石丸靖二熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、春田昭一氏(済生会熊本病院検診センター)を総会議長に選出し、議事に従い5項目の議案の審議が行われた。

#### 1. 平成20年度事業報告及び会計に関する報告

田中会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第4号発行等、1年間の事業が報告された。

会計の有松氏より20年度の会計について決算状況が報告された。この中で保健学科入学生の会費の納入率が低かったため当初予算より収入が少なかったとの報告があった。

その後、6月30日に行った会計の監査結果について、報告が行われた。



総会風景

質問等がなく、採決を行い、出席者の賛成多数で平成20年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は承認された。

#### 2. 平成21年度事業計画(案)について

田中会長より、21年度事業計画(案)について説明があり、昨年行った事業を継続し、第5号の同窓会会報の発刊についての説明があった。

#### 3. 平成21年度予算(案)について

21年度予算(案)について会計の有松氏より説明があった。

### <質疑>

質問等がなく、採決を行い、参加者の賛成多数で平成21年度事業計画(案)、平成21年度会計予算(案)は承認された。



同窓会会長挨拶

#### 4. 平成22-23年度の会長選出について

田中会長より、出席者に会長候補者の説明があり、満場一致で宮里邦子氏(熊大医学部保健学科看護学専攻)の会長就任が決まった。その後、新会長に決まった宮里邦子氏より挨拶があった。

#### 5. その他

その他の追加議題はなかった。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、「会員一人ひとり同窓会の発展の為、協力していきましょう」と挨拶後、降壇した。

最後に、前田副会長より「今年の出席者が同期生にも呼びかけていただき、来年さらに多くの同窓生が総会に参加されますようにお願いします。」と閉会の挨拶があり、14時30分に終了した。

平成21年8月1日

文責 前田 浩、続 隆文

## 特別講演

### 「私を変えたスペインヒーリングロードの旅」

山本みゆき (エナジーヒーラー・スピリチュアルカウンセラー)  
(医療短大 看護学科 12期生)

医療者の役割は、患者や家族をケアすることに重点がおかれている。しかしながら深刻な疾病や問題を抱えた患者や家族と関わることが、一人の人間としての医療者にもたらす影響は、見過ごすことができない。適切なセルフケアの教育を受けていない医療者にとって、日々蓄積していく



ストレスや苦悩を抱えながら、患者や家族に対する効果的な心の通うケアを提供することが果たして可能だろうか？

今回の講演は、スペインでの巡礼の旅での体験と学びを紹介し、医療者としてのこころのあり方、セルフケアの重要性そして、一人の人間として患者と向き合うことの大切さを問いかけるものである。

スペイン北部に750kmにわたって横たわるカミノデサンティアゴは、中世期に始まった巡礼の道であり、年間約10万人の巡礼者が聖地サンティアゴを目指して旅をするといわれている。「ホスピス」という言葉は、まさにこの中世期の巡礼の旅の宿に由来している。アメリカにおいて6年間在宅ホスピス看護師として終末期医療に携わっていたものの、始めて「ホスピス」のルーツを巡礼者として訪れた経験が、人間として、看護師として深い影響をもたらした。

巡礼のプロセスは、ごくシンプルであるが、道中出会う人々とのふれあいや出来事、天候などが巡礼の旅を独自の体験へと形作る。私たちは生まれたときから小さな死を体験し、その小さな死にどう関わってきたかが、肉体の死を迎える際に如実に現れるといわれている。巡礼の旅では、失望、喪失、別れ、出会い、環境の変化など、小さな死を常に体験する。人生は予期せぬことの連続である。漫然と歩いていると大切な道しるべを見過ごしてしまうことがある。自分自身の生き方を振り返るとても貴重な学びであった。

さらに学んだことは、専門職としての姿勢を維持するべきことはさることながら、よろいをかぶって接している、心を開いた関わりは生まれにくいということである。無防備な立場で不安や苦痛を抱えている患者と向き合う医療者が、一人の人間としての生き方を振り返ることは重要である。専門職の姿とは、完璧な人間であるということではない。むしろ人間らしい自分を認め、正真正銘な自分を表現する勇気も必要であると考えている。巡礼者として人からの

助けやケアを受ける身になって初めて、自分の心の弱さを認め、解放することができた。ホスピスナースとして疲れきっていたところと体を癒やしてくれたのは、温かく通う心の絆だったのである。

この旅の経験は、「誰もが人生を旅する巡礼者である」ということに集約される。医療者が患者や家族と同じ目線に立ち、そして人間としてこころを開くことで互いに満足できる癒やしの関わりとなるのではないかと考える。

最後に、熊本大学保健学科同窓会会長の田中紀美子准教授をはじめとした関係者の方々に講演に招いていただいたこと、さらに同窓会ならびに懇親会開催当たってご尽力いただいたことに心から感謝の意を表したい。



## 懇親会



## 国家試験合格状況

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看護師	19	65	65	100.0	51,313	46,342	90.3
	20	65	64	98.5	50,906	45,784	89.9
保健師	19	74	70	94.6	11,055	10,066	91.1
	20	77	77	100.0	12,049	11,773	97.7
助産師	19	14	13	92.9	1,722	1,690	98.1
	20	17	17	100.0	1,742	1,741	99.9
診療放射線技師	19	25	22	88.0	2,444	1,789	73.2
	20	43	34	79.1	2,547	1,896	74.4
臨床検査技師	19	27	27	100.0	3,997	2,947	73.7
	20	38	37	97.4	3,701	2,657	71.8



## 平成20年度卒業生の進路状況について

H21.4.27現在

看護学専攻 (卒業生77名)		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	32
熊本赤十字病院	熊本県	5
済生会熊本病院	熊本県	4
福田病院	熊本県	2
熊本市職員	熊本県	2
国立病院機構 熊本医療センター	熊本県	1
南関町職員	熊本県	1
浜の町病院	福岡県	4
福岡大学病院	福岡県	2
久留米大学病院	福岡県	2
福岡徳洲会病院	福岡県	1
済生会福岡総合病院	福岡県	1
国立病院機構九州医療センター	福岡県	1
長崎大学医学部・歯学部附属病院	長崎県	2
国立病院機構 長崎医療センター	長崎県	1
佐賀県職員	佐賀県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
都城市役所	宮崎県	1
鹿児島県立病院	鹿児島県	1
京都第一赤十字病院	京都府	1
京都第二赤十字病院	京都府	1
済生会横浜市東部病院	神奈川県	1
日本赤十字社医療センター	東京都	2
慶應義塾大学病院	東京都	1
東京慈恵会医科大学附属病院	東京都	1
国立成育医療センター	東京都	1
就職小計		73
(進学)		
熊本大学看護教諭特別別科	熊本県	3
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	1
進学小計		4

放射線技術科学専攻 (卒業生47名)		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	3
熊本県総合保健センター	熊本県	2
熊本赤十字病院	熊本県	1
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
九品寺クリニック	熊本県	1
熊本セントラル病院	熊本県	1
植木町国民健康保険植木病院	熊本県	1
天草地域医療センター	熊本県	1
高木病院	福岡県	2
九州厚生年金病院	福岡県	2
済生会八幡総合病院	福岡県	2
福岡大学病院	福岡県	2
戸畑共立病院	福岡県	1
新古賀病院	福岡県	1
久留米大学病院	福岡県	1
行橋中央病院	福岡県	1
大牟田市立総合病院	福岡県	1
大牟田天領病院	福岡県	1
萩原中央病院	福岡県	1
白十字病院	福岡県	1
福岡輝栄会病院	福岡県	1
福岡大学筑紫病院	福岡県	1
湯布院厚生年金病院	大分県	1
島根大学医学部附属病院	島根県	1
京都大学医学部附属病院	京都府	2
上尾中央総合病院	埼玉県	1
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
東芝メディカルシステムズ株式会社	東京都	1
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン	東京都	1
株式会社日立メディコ	東京都	1
就職小計		38
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	5
進学小計		5

検査技術科学専攻 (卒業生39名)		
(就職)		
済生会熊本病院	熊本県	2
熊本中央病院	熊本県	1
熊本大学医学部	熊本県	1
熊本大学医学部附属病院	熊本県	1
八代総合病院	熊本県	1
高野病院	熊本県	1
田尻クリニック	熊本県	1
福岡中央病院	福岡県	2
国立病院機構九州ブロック	福岡県	2
高木病院	福岡県	2
九州大学病院	福岡県	1
大分県職員	大分県	1
健康保険諫早総合病院	長崎県	1
十善会病院	長崎県	1
佐世保市職員	長崎県	1
済生会唐津病院	佐賀県	1
宮崎循環器病院	宮崎県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
鹿児島PCL	鹿児島県	1
今村病院分院	鹿児島県	1
いちき串木野市医師会立脳神経外科センター	鹿児島県	1
JA鹿児島県厚生連	鹿児島県	1
鹿児島県庁	鹿児島県	1
JA広島厚生連廣島総合病院	広島県	1
株式会社福山臨床検査センター	広島県	1
一心病院	東京都	1
就職小計		30
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	3
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	4
熊本大学大学院自然科学研究科	熊本県	1
神戸総合医療専門学校	兵庫県	1
進学小計		9

## 保健学科教員紹介

## ◆看護学専攻

## 【基礎看護学】

教 授：前田ひとみ、森田敏子

講 師：木子莉瑛、永田まなみ

助 教：有松 操、南家貴美代

## 【看護教育学】

教 授：花田妙子

准教授：角田俊治

助 教：福山美季

## 【臨床看護学】

教 授：木原信一、宇佐美しおり、国府浩子

准教授：田中紀美子、谷口まり子

助 教：梅木彰子、枝中智恵子、服部多美子、村上美華

## 【母子看護学】

教 授：宮里邦子、山内葉月

准教授：坂梨京子

講 師：寺岡祥子

助 教：生田まちよ、千場直美、吉田佳代

## 【地域看護学】

教 授：上田公代、西阪和子、東 清巳

准教授：永田千鶴

助 教：石原千晴、根本博代、松本佳代

## ◆放射線技術科学専攻

## 【医用理工学】

教 授：桂川茂彦、白石順二、富吉勝美

准教授：阿部 誠、檜垣 強

助 教：船間芳憲、米田哲也

## 【医用画像学】

教 授：荒木不次男、伊藤茂樹、尾道三一、富口静二、

佛坂博正

准教授：島村正道

助 教：肥合康弘

## ◆検査技術科学専攻

## 【構造機能解析学】

教 授：石丸靖二、二科安三、羽山富雄、吉永一也

講 師：伊藤雅浩

助 教：橋本弘司

## 【生体情報解析学】

教 授：乾 誠治、棚瀬純男、原田幸一、三森龍之

准教授：石井俊徳、奥宮敏可

助 教：熊谷エツ子、森 信子

# 熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

## 熊本大学医学部保健学科同窓会会則

### 第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号 熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
  - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
    - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
    - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
    - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
    - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
  - 二 特別会員
    - イ 本学科教員
    - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
    - ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものと

する。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 2名
  - 三 理事 12名  
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
  - 四 幹事 7名
  - 五 会計 2名
  - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
  - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
  - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
  - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
  - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
  - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
  - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
  - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
  - 二 事業計画及び予算

- 三 会則の制定及び改廃
- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要と認める事項

2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

## 第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

## 熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。

2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。

3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。

4 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。

6 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

## 平成20-21年度同窓会役員

名誉会長：石丸 靖二（熊大大学院保健学教育部部長）

会 長：田中紀美子（熊大医学部保健学科看護学専攻）

副 会 長：前田 浩（熊本市市民病院中央検査部）

宮里 邦子（熊大医学部保健学科看護学専攻）

理 事：

（看護） 尾山タカ子（熊大保健学科元教員）、谷口まり子（熊大保健学科）、右田香魚子（熊大医学部附属病院）、本尚美（熊大医学部附属病院）、川崎貴代美（熊本市市民病院）、坂梨京子（熊大保健学科）

（放射） 勝田昇（熊大医学部附属病院）、荒木不次男（熊大保健学科）、川上恵（済生会熊本病院）

（検査） 増永純夫（熊本中央病院）、続隆文（熊本県赤十字血液センター）、中村直子（熊大医学部附属動物実験施設）

幹 事：

（看護） 木山麗子（熊大医学部附属病院）、古澤智美（熊本中央病院）、石原千晴（熊大保健学科）、大賀裕美（熊大医学部附属病院）

（放射） 肥合康弘（熊大保健学科）

（検査） 熊谷エツ子（熊大保健学科）、春田昭一（済生会熊本病院検診センター）

会 計：柊中智恵子（熊大保健学科）、有松操（熊大保健学科）

監 事：山本治美（熊大医学部附属病院）、今村かおる（熊大医学部附属病院）

## 編集後記

新春の候、皆様にはお元気で過ごしたのとお喜び申し上げます。

皆既日食、オバマ大統領就任等に心ときめいた2009年でしたが、今年もワクワクドキドキすることが沢山あることを願っています。

第6回熊本大学医学部保健学科同窓会総会を2009年8月に開催しました。総会後の山本みゆきさんの講演では、自然体で生きることの大切さを改めて考えました。引き続き行われた懇親会では、「マウスなどの動物でも体調が分かるので、患者様をよく観察して小さなサインを見逃さないで……」「社会人として働く場合に、コミュニケーションが非常に大切である」などの貴重なメッセージが先輩から在校生に伝えられました。コミュニケーションの大切さは、若田光一さんの地球帰還時の挨拶にもありました。コミュニケーションが上手にとれたことが宇宙飛行成功の鍵の一つだったそうです。医療従事者にもコミュニケーション能力が求められています。コミュニケーションを上手にとって、患者様の生活の質を高めたいものです。

継続は力です。熊本大学では看護師、放射線技師ならびに検査技師の教育がそれぞれ約111年、44年、45年前から行われています。諸先輩の頑張りの成果が、熊本大学の評価を高めていると思います。私たち保健学科同窓会役員一同は、これまでに築かれた伝統を守り・発展させるように努力しています。私たちの同窓会が、人材育成支援組織ならびに卒業生の心の拠り所となるように、会員の皆様とともに発展していくことを願っています。

同窓会総会についての案内を、熊本大学保健学科同窓会のホームページ (<http://hoken.kuma-u.jp/>) に掲載する予定です。2010年7月3日の総会ならびに懇親会で、皆様とお会いできることを楽しみにしています。

保健学科同窓会幹事 熊谷エツ子  
(衛生検査技師学校1期生)